

経営視点および施策評価への意見

①サマーレビューを市内で完結させない

・サマーレビューの時期に意見交換の場を設けることを希望する。その時点における業界からの困りごとを含め経済団体である商工会議所からの要望や前年度までの評価を伝えるようなスキームにする

②現状維持がマネジメントではない

・マネジメントを「維持管理」や「財政の健全化」という意味だけで捉えないでほしい。「発展的維持管理」という気概で望まなければ、必ず毎年劣化していく

③シティプロモーション&シティブランディングの強化

・それぞれの施策が単発で終わらないよう、横断的な戦略的プロモーション&ブランディングが重要。柏が「選ばれるまち」になるためには必須であるため、これを経営視点に明記することを希望する

④市民と街が育つ可能性を加える

・地域力の向上（シビックプライドの醸成・地域人材の育成）等の視点を加える

⑤計画・目標の妥当な設定と実行するための仕組みづくり

・ロードマップの内容を精査する
 ・各課からの吸い上げで評価するだけでなく、経営視点を踏まえているか確認し妥当性を高める
 ・施策評価の評価（自己評価・外部評価）や総括に対する具体的な次の取組が（取組結果である指標の推移も）不明瞭である
 ・施策を検証する仕組みを書く
 ・AI（人工知能）やロボティクスによる自動処理を活かし業務の生産性を向上させる

⑥読者を意識した良質なデザイン

・冊子が読みにくいため、デザインを改善すべき

⑦SDGsの実現化

・SDGsを原動力とした地方創生の推進という捉え方にしてはどうか。ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、ダイバーシティ等のキーワードを追加してイメージが膨らむようにする
 ・SDGsの一つの本質は分野を横断することによる事業創出（イノベーション）である。既存事業等をSDGsに沿ってタグ付けするだけでなく、市民が17の目標について何が出来るかを検討する場を設ける

業界の困りごと

中小小売業者の最大の脅威は大型店とEコマースです。対策としては自らがEコマースへ進出するか、Eコマースに負けない独自性のある商品開発・店舗構築・サービス業化のいずれかでしょう。これらを支援するための補助金の充実、支援機関の活用、関連設備の税制面の優遇を希望します。以下は特に大きなテーマとして4つを例示しました。

柏市公設市場を活用した都市再生を！

柏市公設市場の老朽化や取扱高が減少傾向にあります。2万坪以上である当該地は市内有数のポテンシャルを有しているエリア。隣接しているスマートシティエリアと連携を図り、ITを活用したスマート市場化を目指し、社会変化に対応した生活のインフラを検討します。また、道の駅を誘致することにより拠点性やコミュニティの強化、販売促進、ブランディング・プロモーションの強化、防災性の向上を希望します。

土地利用を好転させる支援策を！

老朽化した建築物は街の魅力を損なうだけでなく、防災上の観点から大きなリスクを抱えることになるため、そうした建築物の建て替えを推進するために容積率・斜線制限の緩和等や税制優遇等を受けられる仕組みを構築することを希望します。同様に市内で増加している駐車場等の低未利用地において空き家対策を含めて公益的な活用をする場合、税制優遇が受けられるような仕組みの構築を希望します。

千葉柏道路の早期開通を！

国道16号の渋滞は商圏を縮小させる要因になっており、経済的な視点から言って損失が甚大です。また年々増加・拡大している台風等の大規模災害時に代替道路が無く混乱を生じさせる危険性があります。これを解決するために、通過車両と生活車両の分割ができる千葉柏道路の早期実現に向けて対策を進めることを希望します。

柏セントラルランドデザインの共有を！

一般社団法人柏アーバンデザインセンター（UDC2）が2018年7月に策定した柏駅周辺の20年後の将来像を描いた基本構想である柏セントラルランドデザインが市全域はおろか、市役所内ですら知られていない現状です。公・民・学が連携したまちづくり拠点があることは柏市の強みなので、市役所・商工会議所等・大学等で連携を強化し、より効率的で効果的なまちづくりを推進していくことを希望します。

提言委員会

委員長 関口 真太郎
 副委員長 谷 美樹 | 小倉 宏庸
 委員 成實 啓造 | 加藤 隆聖 | 雲津 雅行 | 斎藤 大介
 長 一江 | 吉田 好彦 | 藤原 良行 | 風澤 俊一

柏市第5次総合計画 後期基本計画への提言

私たちの考える、
これからの柏に必要なコト。



2020年、我が国にとっては東京オリンピック・パラリンピックが開催され世界に向けて「クールジャパン」を発信する希望に満ちた素晴らしい1年になるはずでしたが、残念ながら我々にとっては別の意味で忘れがたい1年になりました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な蔓延です。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、政府は全国に緊急事態宣言を発令。2020年4月10日から5月25日まで、外出自粛と休業要請を求められるという未曾有のハザードでした。柏の街においても被害は甚大であり、今なお影響を把握することができない状況ですが、リーマンショックレベルの打撃、戦後最大の打撃など様々な考え方があり、いずれにせよ地域経済へのネガティブな影響があるのは確実と言えます。

2016年3月に策定された柏市第5次総合計画の中間見直し（後期基本計画の策定）に際して、新しい生活様式（ニューノーマル）に準拠したウィズコロナ・アフターコロナのまちづくりを念頭に置いた取組み・事業の抜本的見直しが必要であることは論を待ちません。本委員会においては各業種にまたがる委員が、民間経営者の視点でより良い計画になるよう提言をしています。

本提言では基本計画の①こども未来、②健康・サポート、③経済・活力、④地域のちから、⑤環境・社会基盤、⑥安全・安心の分野別方針への提案、経営視点および施策評価への意見、また経済界として業界の困りごとを集約し改善案を提案しています。

本総合計画の目指す将来像は「未来へつづく先進住環境都市」です。「未来」が容易に見通せない社会となつてしまいましたが、サブタイトルにある「笑顔と元気」を大切に、コロナ・クライシスに負けないよう持続的なまちづくりを展開する必要があると考えます。

経済・活力 ～柏セントラルの再生が柏市の生命線～

① 柏駅周辺（柏セントラル）のまちづくり

- ・まちなか居住を含む定住促進と域内雇用の創出
- ・柏駅西口北地区再開発の推進
- ・旧そごう跡地の開発誘導および調整
- ・居心地の向上（緑化・憩うことのできる休憩場所の確保等）
- ・大型店と商店街の連携プロジェクトの推進
- ・ストリーートの利活用の推進（行政・警察との連携の強化）

② 柏の葉キャンパス駅周辺のまちづくり

- ・スマートシティ等の先進的なまちづくりの推進
- ・環境未来都市の推進
- ・地元の企業や地域コミュニティとの連携

③ 「公・民・学」の連携拠点がある強みを活かす

- ・「住みたいまち」「企業に選ばれるまち」となるよう公・民・学が連携したまちづくりの強化

④ 観光コンテンツの見直しと観光情報の共有強化

- ・市内全域の観光に関する情報の共有化（商店会レベルのイベントも含む）
- ・スポーツ・自然・体験に文化・飲食・ショッピングを加え、通年観光を強化
- ・スポーツタウンとしての宣言・ホームタウンチームとの連携
- ・eスポーツの拠点づくりおよび世界で活躍するプロ選手の育成環境づくり
- ・手賀沼・東部地区の資源活用の検討とアグリビジネスの創出
- ・道の駅の拠点性・交通アクセス・マーケティングの強化

⑤ 医療ツーリズムの強化

- ・地域包括ケアシステム・がんセンター東病院等の資源を活かした交流人口の強化
- ・受け入れ態勢の整備とビジネス化へ向けた検討
- ・柏市立柏病院との連携

⑥ 交通インフラを利用した集客機能の強化

- ・インターチェンジを用いた北部の集客とさらに強化した特徴のある施設の配置
- ・柏駅周辺のエキナカの強化

⑦ 時流にあった事業の強化

- ・消費行動の変化に対応するまちづくりの再検討
- ・サービス業の強化とネット通販との共生
- ・雇用創出の充実（海外の方々も含む）

⑧ 戦略的シティプロモーション・シティブランディングの推進

- ・選ばれるまちを目指しまちの個性を確立
- ・専門人材の育成・配置（柏市役所および柏商工会議所）
- ・東葛エリアや、常磐線・TXなど路線全体で魅力向上を図る
- ・税制優遇等を活用した企業誘致の促進



多様な使い方ができる魅力的な
ストリートデザイン



市民が集う公設マーケット



自然を活かした屋外レストラン

こども未来 ～人口の綱引きに勝つことが、成長の見込めるまちの生命線～

① 教育環境の向上

- ・グローバル化・ダイバーシティを前提とした乳児・幼児への教育改革
- ・ITリテラシー教育の推進
- ・中高一貫校等著名進学校の誘致
- ・インクルーシブ教育の推進と支援体制の構築
- ・体育等の専門分野について外部委託の推進
- ・学校外での運動サポートや人間関係を学ぶニーズへの対応

② 子育て世代に選ばれるまちづくり

- ・ベビーカーや車椅子等の歩行環境の向上・子どもを事故から守るハード整備
- ・近隣他市との差別化が実感できる子育て世帯向け経済的支援の枠組みの強化
- ・駅前保育施設の整備
- ・出産施設・小児科・小児2次・3次救急医療拠点等の整備
- ・こども食堂事業とフードロス対策の連携（柏の農家・飲食店との連携強化）



タブレットを用いた授業風景

健康・サポート ～健康寿命延伸対策は持続可能な財政の生命線～

① 予防医学の促進

- ・定期的な運動などの健康増進の推奨
- ・早期発見・早期治療の推奨
- ・リハビリ体制の充実

② 地域包括ケアの推進

- ・在宅医療を選択できる医療サービスの拡充
- ・地域内での患者のカルテの共有

③ ICTを活用した健康寿命延伸対策

- ・科学的エビデンスに基づく保健指導の推進
- ・健康寿命延伸産業の創出
- ・域内企業間における医工連携、新たなサービスの創出等の推進を通じた雇用創出や企業投資の促進

地域のちから ～柏を好きな人・誇れる人をどれだけ増やせるかがまちの生命線～

① 誇りに思える柏

- ・シビックプライドの醸成
- ・まちづくりの担い手となる市民および企業市民の育成と発掘

② 文化事業の強化と収益化

- ・プロスポーツチーム等との連携によるスポーツ文化の創出と市民への普及啓発
- ・プロスポーツチーム等との連携によるトップアスリートの育成
- ・音楽文化のブランディングとプロモーション
- ・コンサートホール・アリーナの整備による高質なコンサートの誘致

③ 空き家を活用した居場所づくり

- ・不登校児の受け入れ態勢の整備
- ・独居老人等の引きこもりの解消

④ 市民と行政の相互理解の促進

- ・対話ができる環境づくり
- ・広報力（市民へ情報を伝える）・広聴力（市民ニーズを聴く）の強化



We Love Kashiwa キャンペーンと
柏まつり

環境・社会基盤 ～公共施設・交通機能の戦略的なアップデートがまちの生命線～

① 都市空間の高質化

- ・「快適に歩いて過ごせるまち」の推進
- ・魅力あふれる都市空間の創出

② 公共施設の再配置の検討

- ・「公共施設管理計画」を踏まえて整備の優先順位を決定
- ・公共機能の複合化
- ・駅前への市役所機能の移転等

③ 交通機能の強化

- ・柏駅と柏の葉キャンパス駅や手賀沼エリアとのアクセス性の向上

④ 魅力のある公園整備

- ・公園等の屋外運動施設の有効的な配置
- ・民間の力を活用した魅力的な公園整備
- ・地域コミュニティと連携した維持管理体制の構築

⑤ 環境まちづくりの強化

- ・「エコハウス」等を用いた省エネ・再エネ・創エネの推進



池袋のイメージを大きく向上させた
南池袋公園

安全・安心 ～市民と来街者が安全・安心を「実感」できるかがまちの生命線～

① 国土強靱化地域計画の策定

- ・想定外の事態への備えと地域の活性化のために柏市も国土強靱化地域計画を策定

② 防災力の向上

- ・事業継続計画（BCP）の見直しと確実な遂行
- ・近年頻発に起こる自然災害への備えと啓発
- ・物流拠点を誘致し被災時における緊急地域内配送の仕組みを構築

③ 医療機関の拡充

- ・緊急時の救急患者の受け入れ態勢の強化
- ・感染症対策病床の整備・拡充のための医療機関への助成

④ 非常時に対応したサービス体制の構築

- ・地域で連携した買い物弱者への有料配送サービスの実施
- ・柏地区タクシー運営委員会との連携による災害時宅配サービスの検討
- ・行政の生活必需品の備蓄
- ・災害時地域ボランティアの常時登録・運営

⑤ 風紀の向上

- ・パブリックスペースにおけるマナーの周知・改善
- ・客引き等対策パトロールの強化と手法の再検討



柏駅周辺を見回る客引き等対策パト
ロールの1団